

緑化委員会広報

園芸予算会計と新役員を承認

20年度第4回全体会議

緑化委員会は4月5日の作業後に第4回委員会全体会議を開催した。

林勘治・委員長、田上順次・会計書記が平成20年度に計上された園芸関係予算の総支出状況を報告した後、平成21年度の活動計画と新役員を提案し、承認した。

活動計画では例年通り年4回の委員会全体会議を開催するほか、毎月1回の定例作業を実施。管理組合理事会の草刈り作業の日程によつては、一部変更するが、基本的には毎月第1日曜日に行う。役員会を委員会全



ナンキンハゼせん定 = 2月定例作業

体会議に変更することもあるとしている。

役員会については、基本的に定例作業前に毎回開催して、作業計画や備品管理等のほか、理事会、多摩市、造園業者などとの業務事項などを協議する。

「新役員」委員長林、副委員長富田、会計書記田上、役員香村、同長谷川、同円実、同中沖、同福島、同脇

中高木二百十四本せん定

造園業者が実施

造園業者「風雅苑」に業務委託している平成20年度の中高木せん定と生垣修復作業が1月下旬から2カ月近く掛けて実施された。

整備した中高木は計二百十四本。タウンハウス8号棟の枯れ死した一部生垣をベニカナメからサザンカに植え替えた。

中高木せん定は周回道路周辺と大松台小学校緑道側、南側斜面、東側通路脇のイチヨウを中心に行なった。

イチヨウは2号棟周回道路脇の建物側5本と団地入り口近くの大イチヨウをせん定。一部で生育を止める「止め刈り」をした。

また、年2回実施している春の中低木、生垣消毒は5月9日に無事終了した。



5月に今年初の草刈り実施

設立3年目の鶴六アダプト会

ホームタウン鶴牧6団地の西側にある歩行者専用道路「そよかぜの道」では、朝夕、ランドセルを背にした児童たちが元気よく小学校へ通う姿がみられます。

ピカピカの新人生を迎えた4月にはグリーンベルトの草はまだ伸びていなかったが、気候が暖かくなつた最近では急に雑草が目立つようになりまし。

当団地は、一昨年に「鶴六アダプト会」を発足させました。この間、緑化委員会メンバーが総力を挙げてグリーンベルトの雑草刈りをはじめ、生垣のせん定、秋口のモシバフウの枯れ葉集めなどの作業に取り組

み美化活動に努めてきました。このため道路利用者からも賛辞の声が多く寄せられています。

今年度は緑化委員会の定例作業日の5月10日に第1回目の草刈りを実施しました。

昨年4月、多摩市アダプト制度道路交通課によつて、鶴六アダプト会の名称で、「ここは私たちが清掃美化活動しています」の看板が二カ所設置されました。

道行く人がこの看板を眺めている姿をよく見受けられます。

アダプト会としては、看板倒れにならないよう今年も一層の美化活動に努め、

児童たちが気持ちよく通学できるよう頑張りたいと思います。皆様のご協力をよろしく願います。(アダプト会会長 香村)

定例作業報告

(2月・5月)

2月1日(日) 東側斜面の道路脇のナンキンハゼの整備作業。作業の手際よく短時間で13本近くのナンキンハゼを丸坊主にせん定。

2月22日(日) 棚卸しの事前整備。備品を点検し台帳と照合。

3月1日(日) 施肥と棚卸しの点検確認作業。化成肥料340キ口を手分けして樹木の根元に散布。

4月5日(日) 委員会開催。21年度の新役員選出と活動計画を決定。作業は雑草や生垣の生育がまだ目立っていないため中止、作業道具の手入れを実施。

4月29日(水) 会員有志による団地夏祭りなどによる炊き出し用の釜の製作、整備作業。

5月2日(日) 炊き出し用の釜、2日目の製作続行で完成。2面に紹介記事。

5月10日(日) 定例作業。東側歩道のアベリアせん定、北側歩道橋の中高木の伐採、アダプト作業で大松台小学校側のグリーンベルトの草刈り。



5月の定例作業は団地外
 周の草刈りなどを中心
 に実施。東側歩道脇の
 アベリアのせん定、北
 側の歩道橋脇の中高木
 せん定、鶴牧六アダプ
 ト会が担当している大
 松台小学校の遊歩道の
 草刈りに分かれて作業
 した。

伸び出したアベリアは
 頭をそろえ、下草を刈
 った。遊歩道脇のグリー
 ンベルト

外周の樹木や雑草刈り
 久々に5月定例作業
 も暑さとともに雑草が
 伸び、刈り払い機を使
 ってきれいに刈り上げ
 た。



歩道橋脇の中高木の整
 備は、伐採が得意な身
 軽な3人組の「切り屋
 さん」が担当。交代作
 業で瞬間に見えなくな
 った。この中高木は枝
 が成長して歩道橋に垂
 れ下がっていた。

夏祭りのカレー作りに威力

煮炊き用のかまどを更新

恒例の団地夏祭りなどで使用する新しい煮炊き用のかまどが出来上がった。毎年、夏祭りや餅つき行事に使っていたかまどが古くなって危険になったため、2日掛かりで新しく作り替えた。

かまど用のドラム缶は前回同様、佐藤会員の紹介で知合いの会社から払い下げを

受けた。作業は高村、加藤、山城、柏木の会員が電気ノコなどを使って、ドラム缶の底を開け、煙突などの部品をホームセンターで購入して取り付けた。

出来上がったかまどをたまたま見に来た近くの自治会役員が、立派な出来栄えにびっくり。「うちでも特注するか」と冗談をいうほど本格的な作りで、今年7月の団地夏祭りのカレー作りから威力を発揮する。

災害時の炊き出しにも使えるので、心強い防災対策の新兵器になりそうだ。



編集後記

・ウグイスの鳴き声が例年になくにぎやかだ。団地内にも縄張りを確保したウグイスがいるのか、毎朝さえずる声が絶えない。

・アダプト会が3年目に入り、5月に今年1回目の作業を実施。香村会長にアダプト会の実情を寄稿してもらった。

・煮炊き用の新しいかまどが出来上がった。玄人はだしの達人集団が2日間かけ完成させた。

・元会員で山中湖畔に引っ越した細見さんの山荘に押し掛け、野外パーベークーを楽しんだ。

(編集担当 富田)

パーベークー楽しむ
 山中湖畔の細見山荘
 山中湖畔の別荘地に引越した元緑化委員の細見隆さんの山荘に仲間7人が押し掛け、野外パーベークーを楽しんだ。

鶴牧から引越して3年。山荘前に広がる庭園も着々と整備され、日常作業をする立派な工房まで出来上がっていた。緑豊かな自然環境に囲まれ、山荘近くまでリスやシカ、イノシシなどが姿を見せるといふ。

標高千百メートルの山荘は、冬になると気温が氷点下20度近くにもなるが、四季折々の富士の姿は、また格別だと話していた。

